笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

# 学校便り

第３５１号
平成２８年２月１日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

## 「型にはめる」こと、「型にはまる」こと

校　長　　鈴木　隆志

梅が香に　追ひもどさるる　寒さかな

俳人・松尾芭蕉が詠んだ句です。＜梅が咲いたからといっても、即、春が来たというわけにはいかない。寒のもどりということがある。立春後の寒さを「余寒」という。＞

もうすぐ立春、暦の上では春を迎えます。また、今年のお正月は暖かく、梅も早々と花を咲かせていました。それでも、まだまだ寒さの厳しい日が続きます。区内でも、風邪やインフルエンザによる欠席者が増えています。御家庭におかれましても、うがい手洗いの励行をはじめ、バランスのとれた食事、十分な睡眠時間の確保等、お子様の健康管理に御配慮いただきますよう、お願いいたします。

光八小では、「みんな違ってみんないい　認め合えればもっといい」という教育を進めています。個性を認め、互いに思いやることを大事にしています。個性尊重といっても、自由とか自主性の名を借りた放任主義ではありません。教育も子育ても、ある程度「型にはめる」ことは必要なことです。ルールや決まり、規律がそれにあたります。教育現場では、〇〇スタンダードとか、〇〇の構造化、〇〇の法則という表現も用いられます。型にはめることは必要なことですが、型にはめること自体が目的になってしまってはならないと考えています。型の先には、個性伸長、自分なりに考えることや自分自身で判断することができるようになってほしいという願いが込められているのです。

私は一個人として、他者に対し自分の生き方ややり方という型にはめるつもりは毛頭ありません。むしろ、自分が置かれた状況によって自分の型ができているように感じています。八小の校長として個性あふれる一人一人の光っ子たちと出会い、保護者や家族の皆様と出会い、地域の方々と出会い、そうしたたくさんの出会いが、今の自分を育ててくれて、今の自分の型があるのだと思っています。出会いに感謝です。

光っ子たちが「こんにちは」と挨拶しているのは、型にはめているというより、型にはまっていると言った方がよいのかもしれません。運動会の組体操で５・６年生が「八小、最高！」と叫ぶのも、型にはめているのではなく、型にはまっているのでしょう。自分の思いを発表したり、自分の得意なことを自慢したりできる光っ子たちも、八小らしさという型にはまっているのでしょう。型にはまると言っても、型どおりとか、画一的形式的で特徴がないとか、マイナスのイメージではありません。規律や約束事を守り、社会の一員として自主的・自律的に生きる姿です。

「型破り」というと、既成の枠を超えたオリジナリティーやエネルギーを感じます。型破りの人には型が無いのでしょうか。落語家・立川談志（1936-2011）は、「型ができていない者が芝居をすると形無しになる。メチャクチャだ。型がしっかりした奴がオリジナリティーを押し出せば型破りになる。どうだ、わかるか？　難しすぎるか？　結論を言えば、型をつくるには稽古しかないんだ。」と語っていました。型があるから型破り、型が無ければ形無しなのです。

光っ子たちには、型にはまりながらも、個性を伸ばし型を超えた人間に育つよう、願っています。